

キンボールレンタル授業実践レポート

単元名 3年「落とすか／落とさないか〜つくろう☆自分もみんなも楽しいオリジナルゲーム〜」

(E ゲーム イ ネット型ゲーム)

はじめに

本学級の子どもは、自分のアイデアを生かしながら友達と学び合うことを楽しむことができる。「ラケットとボールを使って遊ぼう」の学習では、ラケットでボールを打つ動きをより楽しもうと、友達と関わり合いながら様々な運動領域につながる遊びをつくり出した。そして自ら遊びをつくり出すと、友達に遊びを紹介したり友達のできた遊びをやってみたりしながら、自分の遊びをさらに楽しいものにつくり変えようとしていた。このように、本学級の子どもは、自らの力で遊びをつくり出すプロセスを楽しむ傾向にある。単元名にもある「自分もみんなも」は、本学級の子どもたちが目指す学級に近づくために大切にしている思いである。たとえ勝敗を競い合う運動であっても、互いの違いを肯定的に受け止め、違いを生かしながら自分たちで動きを創り出していくプロセスを楽しんでほしいと願う。そこで、自分もみんなも楽しめるゲーム自体を自分たちでつくり出す本教材を子どもに出合わせたいと考えた。

1. 単元について

本単元は、子どもが一律に同じゲームを経験していく中で動きを創っていくものではなく、典型となるゲームを基にルールを変えながら動きを創っていく。そうする理由は、以下の3つである。

1つ目は、小学校3年生の体育を運動遊びから運動への過渡期と捉えたことにある。子どもが昨年度まで経験してきた運動遊びと今年度より経験している運動とが、その子の中で滑らかに接続されるものになることは、その子にとって運動することがより意味のあるものになると考えたからである。

2つ目は、子どもが動きを創る楽しさを味わえるよう、自分の動きを客観的に捉える素地を養うことにある。子どもが自分の動きに目を向けるようになるには、動きを動画で見返したりその動きについて振り返ったりすることが有効だろう。この向き合い方に加え、子どもがルールづくりをしていく中でも自分の動きに目を向けることができるのではないかと考えた。子どもがルールを生み出したり変えたりする際の根拠となるものが、動きだろう。ルールの根拠を問われた子どもは、自分にできる動きや自分が楽しく感じる動きを言語化するとともに、その動きを客観視することになる。このように、動画に加え、ルールづくりによって自分の動きを客観的に捉える素地が養われていけば、動きを創る楽しさによりふれやすくなると考えた。

3つ目は、生涯スポーツの観点から見た価値にある。本単元のように既存のゲームの中で動きを創るのではなく、ゲーム自体をつくっていく経験は、自分のやりたい動き、楽しいと感じる動きを大切にしながら自ら運動を選択していく生き方を支えるものにもなると考えた。

本単元では、子どもが仲間と連携した動き、自分たちの意図した動きを再現しやすくなるようにネット型ゲーム（連携プレー型）を扱うこととする。また、使用するボールは直径84cmのプラクティスキンボールとする。大きなボールを一人で操作する難しさは、仲間と連携して動きをつくる必要感に繋がるだろう。また、ボールの弾性や滞空時間の長さは、子どもにとっての魅力となると同時に、

どの子どもボール操作に慣れ親しめる可能性も秘めている。こうした運動や教具の特性を生かすことで、子どもが仲間と連携しながら「相手コートにボールを落とす／自コートにボールを落とさない」という運動特性にふれる楽しさを味わいやすくなるようにした。自分たちのアイデアを生かし、自分たちで動きを創り出していくプロセスをどの子ども楽しんでいけるよう、本単元では「自分もみんなも楽しい」オリジナルゲームをつくり上げていく活動を構想した。

2. 単元の実際の流れ

①<キンボールを使って、楽しい動きを見つけよう>

- ・私は大玉転がしが得意だから、転がして遊びたい
- ・このボールは軽いしよく跳ねるから、サッカーをしてみよう
- ・ステージの上から思いっきりボールを蹴ってみよう
- ・大きなボール。みんなで持って運べるかな？

<どんな動きに楽しさを感じたかな>

- ・ボールを運んだり、転がしたりするのが楽しかったよ
- ・ボールを蹴った時に、ボールがよく弾んで楽しかった
- ・ボールを上に乗せて、くるくる回したり、バランスをとったりするのも楽しかったよ
- ・チームでリレーをしてボールをつないだよ

<つなげることを意識して、ラリーゲームをやってみよう>

- ・みんなで円になろう。あんまり広がらない方がいいよ
- ・次はキャッチじゃなくて、ポンってやってみるね
- ・名前を呼んでパスし合おうよ
- ・ボールを上を、やさしく出そう
- ・軽く、ふわっとしたボールだよ
- ・上に上げるパスと前に出すパスは、どちらの方がパスしやすいのかな？両方、試して比べてみよう
- ・うちのチームは、やっぱり上を意識した方がラリーを続けやすいね

②<ラリーゲームでは、上と前のどちらを意識してボールを出すといいかな>

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| ・前の方がパスはしやすい | ・上に来たボールの方がキャッチしやすい |
| ・前だと、ボールが低くなるから、相手はキャッチしにくい | ・ボールを上を上げてパスするのは難しい |

前と上を合体させて、そのバランスがとれる位置を探すのが大切だと思う

<次の人が上げやすいボールを意識してもう一度ラリーゲームをしよう>

- ・上と前と、どちらの方が続くか、もう一回試してみよう
- ・やっぱり上の方がラリーは続くね。
- ・前にパスを出す時は、ボールを強く出したらだめだよ

<ボールを上を上げたり前に出したりする動きを生かして、落とすなゲームをやろう>

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| ・サーブを打つ順番を決めよう | ・ボールをつなげるのが難しいな |
| ・相手に点を取られないように、思いっきり打つぞ | ・1回目のレシーブはキャッチしてパスしてみよう |
- ・キャッチしたり仲間にパスしたりするのが楽しかったよ
 - ・ゲーム自体は楽しかったけど、動きの楽しさはまだわからないな

③<落とすなゲームを楽しむために、動きのポイントを見つけよう>

- ・U男が後ろに回ってガードしたところがいいね
- ・ボールから目を離していないからできるんだよ
- ・黄チームのサーブが、R子の後ろに行くとう男が予想したから、先に後ろに回ったんだよ
- ・ボールをよく見るから、そのボールがどこに行くか予想して、行動することができるんだね
- ・相手の黄チームのI男も、オレンジチームのボールが真ん中に来ることを予想して動いているよ
- ・ピョンピョン跳ねていたから、動けたんだよ
- ・なんでピョンピョンがいいの？ピョンピョンしたら、ボールから目を離しちゃいそうじゃない？
- ・じゃあ実践して、いいかどうか試してみようよ

<動きのポイントを意識しながら落とすなゲームをやってみて、動きの楽しさを見つけよう>

- ・サーブを、ポンって力を入れて打つと楽しいね
- ・サーブは、奥の方を狙うと、相手が取りにくいよ
- ・打つ楽しさもあるけど、パスをつなぐのも楽しいよ
- ・ボールがどこに行くかを予想して動くのが楽しいよ
- ・ワンバウンドもありにしてほしいよ
- ・でも、ワンバウンドありの悪い点もある。それがOKだと、相手もボールを取りやすくなっちゃうじゃん

<落とすなゲームのルールを工夫して、もっと楽しいオリジナルゲームをチームでつくろう>

- ・じゃあ、どういうゲームにする？
- ・蹴る動きに変えてやってみるのはどう？
- ・それじゃあ、男子の方が有利だよ
- ・頭や足、体のどこで打ってもOKなルールでやってみよう
- ・つなげる動きが楽しいから、ボールをできるだけ多くつないで返すゲームをやってみよう
- ・色々試したけど動きを変えても難しくてうまくいかないよ。落とすなゲームのままでもいいんじゃない？

④<落とすなゲームで感じる楽しい動きって何だ？>

- ・セッターみたいに「つなげる」動きが楽しい
- ・サーブを「打つ」のも面白い
- ・ボールを「キャッチする」動きも楽しい
- ・予想するのも楽しい。
- ・予想すると「キャッチ」もできるし、そこから「つなぐ」「打つ」ができるから、予想することから始まるよ

<チームでどんな動きをより楽しくしたいかを共有して、自分もみんなも楽しめるオリジナルゲームをつくろう>

- ・体のどこでボールを打ってもOKでやったら、打つ楽しさをもっと味わえるかもしれないよ（ピンクチーム）
- ・キャッチしたボールをパスできると楽しいから、5回連続パスして返すゲームをやろう（青チーム）
- ・みんながつなぐことを大切にしよう（水色チーム）
- ・キャッチしてパスを正確につなぐぞ（オレンジチーム）
- ・みんなが協力してつなぐってところを大事にしたいよ。だから、キャッチも打つのもみんなで作ってみようよ（赤チーム）
- ・みんなが打つ楽しさを味わえるようにしたいけど、キャッチがうまくできないよね。だから、みんながボールをキャッチして支えたら、みんな打てるようになるんじゃないかな？（黄チーム）
- ・チームのみんながボールをつなげるのも楽しいし、相手とのラリーも楽しいゲームにしよう（黒チーム）
- ・ネットの向こうにボールを返しても、相手がキャッチしたらノーカウントね。相手に取られないようにボールを返していこう（緑チーム）

<オリジナルゲームをチーム間で試してみよう>

- ・すっごく楽しかった。私たちのゲームで、相手チームのみんなも楽しそうに笑っていたよ
- ・黄色チームのゲームは落とすなゲームのサーブを使ったゲームだから、打つ動きが大事だと感じたよ
- ・自分たちで作ったゲームで遊んでみたけど、私は普通の落とすなゲームやバレーボールをやりたいな
- ・自分たちのゲームをもっと進化させたい

⑤<より動きの楽しさを味わえるオリジナルゲームにするために、2チーム間でこだわり交換会をしよう>

- ・私たちのチームのルールでまずゲームをするよ
- ・落とすなゲームのサーブの動きのように打つんだ
- ・1点はどうしたらとれる？それがわからないよ
- ・相手コートにボールを落とせたら1点だよ

- ・(相手とのラリーが) 結構続いたね
- ・おととととと、捕れた！
- ・V男はなんでそんなに遠くから走って打つの？
- ・待って！次はぼくに打たせて
- ・ここから打って、ネットの向こうまで届くかな？
- ・B子、ぼくにパスして！

- ・黄色チームのゲーム、楽しかったよ
- ・みんながたくさん打つ動きをできるところが楽しい
- ・シンプルでわかりやすかった。うちのチームのルールは少し難しいかもしれないな
- ・緑のルールは、3人で返して相手コートに落とせたら3点なんだね。わかった！試してみよう

- ・B子、パスしてつないで！
- ・I男はきっと狙ってサーブを打ってくるぞ
- ・H男、キャッチしたらぼくにパスして
- ・ナイス！今のはいい打ち方だったね

- ・緑のルールをやってみてどうだった？
- ・楽しかったよ。キャッチなしの方が楽しいと思った
- ・私はよくわからなかったな

<自分たちのオリジナルゲームは、自分もみんなも動きの楽しさを味わえるゲームになっているかな>

- ・楽しかった！今日はいつもより動いて心臓ばくばく
- ・自分がボールを返せたのが嬉しかった
- ・(緑チームのように) ボールをキャッチして、(みんなを支えずに) 普通に投げるのも面白かったよね

⑥<チームで話し合ったことを生かしてオリジナルゲームをつくろう>

- ・わたしは、ルールは変えずに、このままでいいと思う
- ・ぼくは、前回、緑チームと対戦して、一人で拾ったりつないだりする動きが楽しいと思ったよ
- ・じゃあ、ぼくらのルールと緑チームのルールのよさを両方混ぜて、「混ぜ混ぜ落とすなゲーム」にしよう
- ・今までの動きみたいに、みんなを支えて打つのもOKだし、緑チームみたいに、一人ひとりでボールをさわってみんなでつなぐのもOKってことだね
- ・よし！実際に動きを試してみよう。オレンジチーム、一緒にゲームしよう
- ・B子、パスするよ
- ・やったあ！決まった
- ・みんな、落とすなよ～！つなぐぞ！

⑦⑧<こだわり交流試合をしよう>

- ・青チームのゲームは、仲間同士でパスをつないだ回数が多いほど、決めた時の得点も高くなるんだね
- ・よし！みんなでつないでいこう
- ・じゃあさ、F子、のポジションをもっとネットの近くにしようよ。その方が、相手コートにボールを返しやすいよ
- ・私がやりたい動きは、I男が私にパスして、私がF子にパスして、F子が相手コートに打つ動きなの。そしたら3点とれるよ
- ・ぼくらが考えたオリジナルゲームだったのに、水色チームに負けちゃった。相手のアタックがすごくて、なかなか拾えなかったけど、拾えた時は嬉しかった。また水色チームと戦いたいな

3. 単元終末の児童のふりかえり（一部）

今日は、キンボール最後の授業でした。ぼくら黄色チームのルールも、他のチームのルールも、自分もみんなも楽しいゲームだったと思う。また、キンボールの授業をやりたいです。

キンボールの授業の中で、自分の得意な動き（キャッチする動き）を見つけることができ、少し自信がついたし、体育の楽しさを知れました。

最後のキンボールの授業、楽しかったです。「つなぐ動き」をみんなで大事にできて、嬉しかったです。また、やってみたいです。

4. 授業の様子



おわりに

キンボールの教具に秘められた可能性を感じて試した本実践。ボールの魅力に惹かれながら材に夢中になって関わる姿、ボールの特性を生かしゲームのルールを考えようとする子どもの姿、自分が楽しいと感じる動きをチームで共有しながら、オリジナルゲームをつくり出していく子どもの姿……。自らの力で学びをつくり出していく姿に心動かされ、「子どもはすごい！」と改めて、実感できた実践でした。仲間と関わり合いながら、一人ひとりの子どもがその子らしさを表出しながら運動に向かうことができたのは、キンボールが、どの子にとっても親しみやすい教具であったため、子どもは、本単元における運動特性にふれる動きの楽しさを味わいながら、自身の動きを高めていくことができたのだと思います。この度は、キンボールを貸し出してくださり、ありがとうございました。キンボールの益々の普及を願っております。